

国語科 学習指導案

茨木市立三島小学校

1. 日 時 令和6年度 9月13日(金) 第5時限(13:50~14:35)

2. 場 所 第2学年1組・2組・3組各教室

3. 学 年・組 第2学年1組(30名)・2組(30名)・3組(29名)

4. 単 元 名 そうぞうをふくらませて読もう(読むこと)

5. 教 材 名 「ニャーゴ」(東京書籍)

6. 単元目標

(1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 [知識及び技能](1)ク

(2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)エ

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

7. 言語活動 読書座談会で「お気に入りの場面を」紹介しよう

8. 教材観

本教材は登場人物の設定におもしろさがあり、ねことねずみ、それに対して指導する先生ねずみなど、子どもたちが「ねこはねずみを追いかけ、食べてしまう」「ねずみはねこを怖がる」など生活の中で知っている情報を重ね合いながら読み進めることができる教材である。しかし、子ねずみたちはねこの存在やこわさを「先生の話の聞かなかった」ことで知ることがなく、「食う食われる」の関係が話のなかでどんどんずれていくストーリーとなっている。もし、この子ねずみたちがねこのこわさを知っていればねこに出会ったときどうなるのか、知らないがゆえに「おじさん、だあれ」とのんきな声で問われ、面食らってしまったねこはどう思ったのかなど、セリフや行動から登場人物の具体的な気持ちを想像できる教材となっている。

文章中には「ニャーゴ」が何度も出てくる。それぞれの場面での「ニャーゴ」の意味合いがちがうことに気づき、「ねこはどんなことをしたくてこのセリフを言ったのか」というように直接心情を問うのではなく、この行動をした理由を考えることで、登場人物の気持ちがおのずと理解できるように指導する。この

ように音読を楽しみながら「読むこと」の力をつけるために適した教材だといえる。

9. 児童観

子どもたちは1年生で、「文章を読んで好きな場面を声に出して読む」ことを学習してきた。2年生に進級し、新しい出会いが待っていた4月、子どもたちは新しい教科書を楽しそうにめくる姿があった。音読教材「風のゆうびん屋さん」で場面ごとにさまざまな人物が現れ、どのように音読すればよいかを登場人物の気持ちやその行動を具体的に想像して「声の大きさ」「スピード」「抑揚」などを考えて読むことを行った。音読を通して「登場人物の行動に着目すると、お話のおもしろさがわかる」ことに気づき、5月の「名前を見てちょうだい」では、4月の読みの力をいかして、読むことC(イ)「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること」をつけたい力と設定した。ここでは物語には「場面」があること、それは「時間・場所・人物」の変容によって変わっていくことをおさえながら、物語が大きく変わっていく様子を子どもたちなりにとらえることができた。朝の時間や、図書時間を活用したり、または廊下に関連書籍を並べるなどしたり、本をいつでも読める環境を設定することで子どもたちがみずから本を手にする様子が多くみられるようになった。このように物語での培った力をいかしながら、本教材を通して「人物の様子を具体的に想像する力」をつけていきたい。

10. 指導観

本教材では読書座談会で「お気に入りの場面を」紹介しよう、という言語活動を設定した。ただ、お気に入りの場面を紹介するだけではなく「指人形」を使って、登場人物のその場面での心情を自分で考えたセリフ等で表現し、友だちに紹介する活動を設定する。

まず第1・2時は「初発の感想」を大いに活用し、子どもたちがどの場面、どの人物に興味をもち想像をふくらませているのかを把握する。ここでの「国語のきろく」は「3びきのねずみとねこ(たま)の行動、どちらがおもしろいと思ったのかな。」と問いかけることで、子どもたちが誰に寄り添って物語を読み進めているのかを把握する材料とする。その際、友だちとの感じ方の違いがあることに気づき、だからこそ友だちと読み進めていきたいという意欲を引き出していきたい。

第2時で「単元のゴール」である「この教材でどんな力をつけるのか」「そのためにどんな言語活動を行うのか」を確認する。さらに、前時で「このお話の中心人物はねこかな、ねずみかな」といった大まかな人物の設定は把握している。続いて「中心人物がだれなのか考えよう」というめあてをたて、「中心人物は行動や考えが大きく変わった人物」という定義をおさえ、お話のだいたいとらえながら、最初と最後の場面の読み比べを行う。その結果、ねずみは一貫してなんにでも興味をもつ人懐っこい子どもたちということが見え、ねこはねずみをだましてなんとか食べようとする存在だということがまとめていくと子どもたちも気づきだした。子どもたちは「たまが中心人物だ。だって…」と叙述をもとに読み進めていく友だちが増えていった。

第3時はこのお話のおもしろさのひみつをさぐっていく。お話には読み手をひきつけるしかけがあることを

子どもたちもなんとなく体感している。この物語も初発の感想時に「ねずみがお話聞いておけばよかったのに」「でも聞いていたらねこをみてにげて終わってしまう。」など、「このお話にしかけがなければ・・・」を予想する子どもたちもいた。「ねずみがニャーゴという鳴き声をかんちがいしている」という子どもたちのつぶやきから「お話にでてくるいくつかのニャーゴの意味をねことねずみがそれぞれどうとらえているのか」を図に表しながら両者の思いにずれがあることでおもしろさが増していることに気づくような活動を取り入れたい。

第4～7時は「物語のおもしろさ」を体感した子どもたちが同じ「宮西達也シリーズ」の3冊の本から1冊えらび、お気に入りの場面を友だちと交流するためにカードを作成していく準備時間とする。まず「ニャーゴで」自分のお気に入りの場面のカードを作成し、友だちどうし交流を行う。

第8時を本時とする。「ニャーゴ」で「中心人物と対人物の考えのずれ」や「場の設定」「人物の設定」など、物語の「読みどころ」を獲得した子どもたちが、今度は自分のお気に入りの場面に対して、自分がどうしてその場面を気に入っているのか、じぶんだったらどうするかなど、指人形をつけて人物の心情をゆたかに想像しながら友だちと交流していく時間とする。

第9・10時ではこの学習のふりかえりの時間とする。この単元で自分がみにつけた力、物語のよみどころなどを想起しながらさらにたくさんの本を読むきっかけとなるようにしたい。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	・場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像している。C(1)(エ)	・進んで人物の様子を想像し、音読で表そうとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全10時間 本時 /10)

時	学習内容	学習評価 (◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	●初発の感想を書く【構造と内容の把握】 ・つきたい力を確認する ・題名からお話をイメージする・教師の範読 ・おもしろさやふしぎなところを交流		○		・行動観察 ・ノート
2	●単元計画を確認する【構造と内容の把握】 ・前時の「みんなのふしぎ」を紹介(問い) ・みんな德音読をする①・登場人物の確認			○	・行動観察 ・ノート

	・場面の確認(時・場所・人)						
3 4 5 6	<p>●物語のたいをとらえる 【構造と内容の把握】</p> <p>●それぞれの場面で登場人物のしたことを読み取る 【精査・解釈】</p> <p>●「ニャーゴ」でお気に入りの場面をしようか いする「お気に入りカード」を作成する①</p> <p>・カードをもとに友だちと交流する(ゆび人形劇を友だちに披露する)</p> <p>【考えの形成】【共有】</p>			○	◎	<p>場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができるかの確認。</p> <p>【主】(行動観察・ノート)</p>	
7 8 本時	<p>●お気に入りカードの作成②</p> <p>宮西達也シリーズ「ちゅーちゅー」「キツネのおとうさんがにっこりわらっていいました」「おまえうまそうだな」から1冊えらび、「お気に入りカード」を作成する</p> <p>【考えの形成】【共有】</p>			○	◎	<p>場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができるかの確認。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>(行動観察・WS)</p>	
9	<p>●この学習のふりかえりを書く</p>				◎	◎	<p>場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができるかの確認。【思・判・表】</p> <p>(ノート)</p> <p>場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができるかの確認。</p> <p>【主】(ノート)</p>
10	<p>●単元テスト(音読テスト)</p>			◎		<p>語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて自分が選んだ好きな場面を音読することができるかの確認。</p> <p>【知・技】(行動観察)</p>	

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

・場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができる

。

(2) 本時の評価規準

・場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像している。【思・判・表】

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
文章を読んで、場面の様子に着目して、登場人物の行動や様子を具体的に想像し、セリフや動きを考え、指人形で表すことができる。【思・判・表】	・えらんだ場面の中で自分のお気に入りが見つけれない場合：お話が大きく動いたところや、中心人物の気持ちが変わったところはどこかを見つける。または、楽しいセリフや、気になる行動場面について考えるよう促す。【思・判・表】

(4) 本時の学習過程

(○指導に生かす評価・◎記録に残す評価)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5分	①本時のめあてをつかむ		
	お気に入りのわけをしようかいしあい、自分の考えを伝えよう		
15分	②同じ本を選んだ人どうして紹介しあう。 ・『ちゅーちゅー』 ・『おまえうまそうだな』 ・『キツネのおとうさんがニコリわらっていました』 ・お気に入りカード→指人形の順に進める。 ・わたしのお気に入りの場面は、○○が～したところです。 ・お気に入りのわけは、…です。 ・△△の場面を指人形でやります。 (・自分だったら～ ・○○に会ったら～) ・二人とも終わったら感じたことを交流する。 ・同じ場面だけど、お気に入りの理由がちがったよ。そんな考えおもしろいかなかったよ。 ・指人形の○○の驚いている感じが	・お気に入りカードを机の間に置き、お互いに共有しやすくする。 ・『ニャーゴ』の時に使った話型を示す。 ・僕のお気に入りの場面は、○○が～したところです。 ・お気に入りのわけは、…です。 ・△△の場面を指人形でやります。 ・交流を重ねていく中で、想像を広げて読んだことを生かして、指人形で表現させる。 ・感じたことの交流がうまくいってない場合は、全体で交流し、モデルを示す。	

<p>15分</p> <p>10分 (発表5分)</p>	<p>伝わってきたよ。その時、△△は悲しいはずだからもっと小さな声でやるといいと思うよ。</p> <p>③ちがう本を選んだ人どうし、紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面の、～～のところがおもしろいね。お気に入りの理由がよく分かったよ。 ・指人形の慌てている感じが動きでも表現できていて△△の気持ちがよく伝わってきたよ。 <p>④自分の考えと友だちの考えのちがいなどに気づき、ふりかえりを書く。クラス全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と違う本を選んだ友だちと対話することで、それぞれの感じ方や読みのおもしろさを感じさせたい。 ・ワークシート(rノート)に気づいたことを書いてから発表する。 ・友だちとの共通点や相違点を知ること、場面についての読みの多様性に面白さを感じることをねらう。 ・めあてに対して振り返りをさせ、学んだことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子について豊かに想像を広げて読み、友だちの考えを認め、自分の考えについて書いている。C(エ)
----------------------------------	--	---	---

国語のきろくを日々のふりかえり 「リャーリ」

【つけたいカ】
 ・お話をよんで ようじょう人ぶつがどうしてそんなことをしたり、言った
 するのか そのわけをきえることが出来る力をつけます。
 【そのためニ】
 ・いつどこで だれが どんなことをしたのかな、言ったのかな をまと
 めまじょう。
 【言語活動(げんごかじぎ)】
 ・読書座談会(よみしょざだんかい)で「すきなお話の・お気に入りのばめ
 ん」をしょうかいしよう。

⑩	/	○単元テスト
⑨		○この学習のふりかえり ・お気に入りのカードを交流
⑧ ⑦	/ /	○あたらしいお話に出会う ・みやにしたつやさんのお話をよもう ・お気に入りのカードをしあげていへ
⑥ ⑤ ④ ③	/ / / /	○登場人物について ・場面でのようす ○それぞれの場面でのようす ・山場
②	/	○お話のだいたいをつかむ ・学習の計画 ・中心人物
①	/	○お話と出会う ・読む ・初発の感想 ・ふしぎだなあ おもしろいな めいじのじょうぶ

国語のきろくに日々のふりかえり
 ほかの作品に出会う
 お気に入りのカードを書く